



只石 恵一郎さん

新井 嘉宏さん

吉田 満さん

神宮 由幸さん

市総務部防災安全課課長。市の防災全般を担い、地震や風水害、大雪など災害時の対応に当たる

消防団東部方面隊第18分団の分団長。住民への防火指導、巡回広報の他、災害時には避難誘導や救助活動を行う

新町第七区区長、同区自主防災会会長。地域全体が浸水想定区域にあり、水害に対して高い防災意識を持っている

高崎中央消防署第3中隊の隊長。緊急消防援助隊として熱海市に派遣。行方不明者の捜索や救助活動に従事した



富岡 賢治市長

危険箇所総点検の実施や避難情報を伝える体制の強化など、災害に強いまちづくりを確実に進めている



## 災害に強いまちづくりを目指す

# もしもに備える高崎の災害対策

市は、災害に備え、毎年危険箇所の総点検を行っています。新たに災害時電話・FAXサービスの運用を開始し、高齢者など早めの避難が必要な人に情報をもれなく伝える体制を強化。浸水が想定される新町地域に「新町防災アリーナ」を整備するなど、災害に強いまちづくりを進めています。今回は、区長や消防団員、消防職員などを迎え、災害対策や安心して暮らせるまちづくりについて考えます。



### 水害や土砂災害に備え 危険箇所の点検を継続して実施

**市長** 災害対策は最も根本的で大事な課題で、本市でも着実に進めています。災害の少ない本市でも、豪雨による水害と土砂災害は、近年非常に現実的な問題ですね。平成26年からは、河川、排水路や農業用水路など毎年テーマを決めて、災害に備えた危険箇所の総点検を行っています。静岡県熱海市の土砂災害を踏まえて、今年は急傾斜地の点検も追加しました。神宮さんは本市からの応援の一員として、熱海の災害現場で対応されたんですね。  
**神宮** はい、高崎市等広域消防局から48人の職員が従事しました。私は第1次隊として3日間活動してきました。  
**市長** 現地ではどんな作業を？  
**神宮** 重機が入れない場所で、がれきを撤去し土砂をスコップや手掘りでかき出しながらの捜索活動です。それは凄惨な状況でした。

を撤去し土砂をスコップや手掘りでかき出しながらの捜索活動です。それは凄惨な状況でした。

**市長** 古くからの旅館や住まいがある地域で起こった災害でした。これまでずっと大丈夫だったのだから、このくらいの雨なら平気だろうという考えは、通用しなくなっていますよね。高崎でも油断はできないと感じます。  
**神宮** そうですね。消防局でも、土砂災害時の専用車両を配備したり、水防訓練の比重を増やしたりしています。  
**市長** 日頃の備えが大切ですね。新井さんは京ヶ島地区の消防団の分団長として、地域防災を担ってくださっているんですね。  
**新井** 大雨の時には浸水しやすい地区を見回ったり、消防団の車で避難の呼びかけをしたりします。  
**市長** 仕事をしながらの出勤や訓練

は大変でしょう。

**新井** 大変なこともありますが、若い頃に消防団に入って、地域に仲間ができたんですね。

**市長** それは良いことです。井野川の流れる京ヶ島地区は地形的に浸水被害が起こりやすい場所です。大雨になるとすぐに危険水位までいってしまふ。調整池の造成や、堆積した土砂や生い茂る草を除去して水が流れやすくなるように、渇水期に川底を掘る作業などを継続して行っていますが、ここ数年の間でも避難の情報を出すようなことが何度ありましたね。  
**新井** この7月にもゲリラ豪雨がありました。新しくできた調整池のおかげで、今回は地区内の被害がなかったんですね。  
**市長** 急激な大雨の時に効果があったということですね。

### ハード面の整備と 自主的な備えで万全な対策を

**市長** 区長の吉田さん、新町は地域全体が浸水想定区域内にあります。現在建て替え中の体育館には、屋上へ避難できるスロープや備蓄庫など災害時に役立つ機能を設けます。ハード面の整備は行政が担いますが、地域の皆さんの普段からの備えも大切ですね。新町地域では自主防災組織の活動がとても盛んで、私も防災の日などにお邪魔することがありますが、皆さんとても熱心で感じています。防災意識が非常に高いですね。  
**吉田** 役員さんが頑張ってくれていますが、ただ地域の避難訓練の参加率がもう少し上がると思います。  
**市長** やはり現実の危機感がないと難しいのでしょうか。  
**吉田** 私の住む七区でも、これまで水が出たことはないから大丈夫という安心感があったんですね。それが2年前の台風19号では、地域で床上浸水の被害が出てしまいました。あれからずいぶん意識が変わったと思います。  
**市長** 台風19号では多くの被害がありました。この被害を教訓に、溜まった水を川へ流す災害対策車を新たに2台

配備したんですよ。他にも、多くの人が避難する避難所の女性専用スペース設置や、ペットを連れた避難者の対応など、多くの課題が見つかりました。今後の改善点ですね。  
**吉田** 今後は早めに避難所に避難する人も増えると思います。避難所の運営には女性の応援もぜひ欲しいですね。  
**市長** 災害時は女性の視点も大事です。最近では女性の消防隊員も活躍していますね。

**神宮** はい、現場では性別に関係なく消火、救急、救助活動に当たります。  
**市長** 消防団はどうですか。

**新井** うちの分団には女性はいませんが、男性はもちろん、これからはぜひ女性にも入団してほしいですね。

### 確かな情報をいち早く提供 早急な避難につなげる

**市長** 災害の危険が迫っている時に、

どうしたらいち早く情報を伝えられるかということも大きな課題です。災害情報はメールやSNSなどで発信していましたが、新たに電話とファクスでの発信も開始しました。  
**只石** 情報を受けることが苦手な高齢者や障害のある方にも利用しやすい方法として導入しました。事前にお住まいの地域などを登録してもらい、その地域に避難指示などが出ると、ご自宅の電話やファクスにお知らせします。確実に情報を得る方法の一つとしてぜひ利用していただき、早めの避難につなげてほしいですね。  
**市長** 行政は地域の実態に合わせて丁寧に情報を届けなければいけません。さまざまな方法で発信していますが、避難行動に最も効果的なのは防災スピーカーや広報車での巡回など、生の声だと思っています。災害時に最前線呼びかけをしてくださる消防団の皆さんには、頭の下がる思いですよ。区長さんをはじめ、災害対策は地域の皆さんの協力あつてこそです。これからもお力添えをいただきながら、災害に強いまちづくりを確実に進めていきます。本日はありがとうございます。一同 ありがとうございます。



建設中の新町防災アリーナ (イメージ図)

対談の様子を動画で「ご覧いただけます」  
新型コロナウイルス感染症対策をとり、参加者の皆さんの了解を得た上でマスクを外して撮影しています

